

焼岳の火山活動解説資料（平成 29 年 5 月）

気象庁地震火山部
火山監視・警報センター

火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、噴火の兆候は認められません。
噴火予報（噴火警戒レベル 1、活火山であることに留意）の予報事項に変更はありません。

活動概況

- ・噴気など表面現象の状況（図 1、図 2 - 、図 4）
北陸地方整備局が設置している焼岳北監視カメラ（焼岳の北北西約 4 km）による観測では、北峰付近の噴気孔からの噴気の高さは概ね 100m 以下で経過しています。また、同局設置の焼岳南西斜面監視カメラ（焼岳の西南西約 2.5km）による観測では、岩坪谷上部の噴気孔からの噴気の高さは概ね 60m 以下で経過しています。その他の地域で噴気は認められません。
- ・地震や微動の発生状況（図 2 - 、図 3）
火山性地震の発生は少なく、地震活動は低調に経過しています。
火山性微動は観測されていません。
- ・地殻変動の状況（図 2 - ~ 、図 4）
GNSS¹⁾連続観測では、火山活動によるとみられる変動は認められません。

1) GNSS (Global Navigation Satellite Systems) とは、GPS をはじめとする衛星測位システム全般を示す呼称です。



図 1 焼岳 山頂部及び南西斜面の状況
(左図：5 月 18 日 焼岳北監視カメラ、右図：5 月 18 日 焼岳南西斜面監視カメラ)

この火山活動解説資料は気象庁ホームページ (<http://www.data.jma.go.jp/svd/vois/data/tokyo/volcano.html>) でも閲覧することができます。次回の火山活動解説資料（平成 29 年 6 月分）は平成 29 年 7 月 10 日に発表する予定です。

この資料は気象庁のほか、北陸地方整備局、国土地理院、京都大学、名古屋大学、東京大学及び国立研究開発法人防災科学技術研究所のデータも利用して作成しています。

資料中の地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の『電子地形図（タイル）』『2 万 5 千分 1 地形図』『数値地図 25000（行政界・海岸線）』『数値地図 50mメッシュ（標高）』を使用しています（承認番号：平 26 情使、第 578 号）。

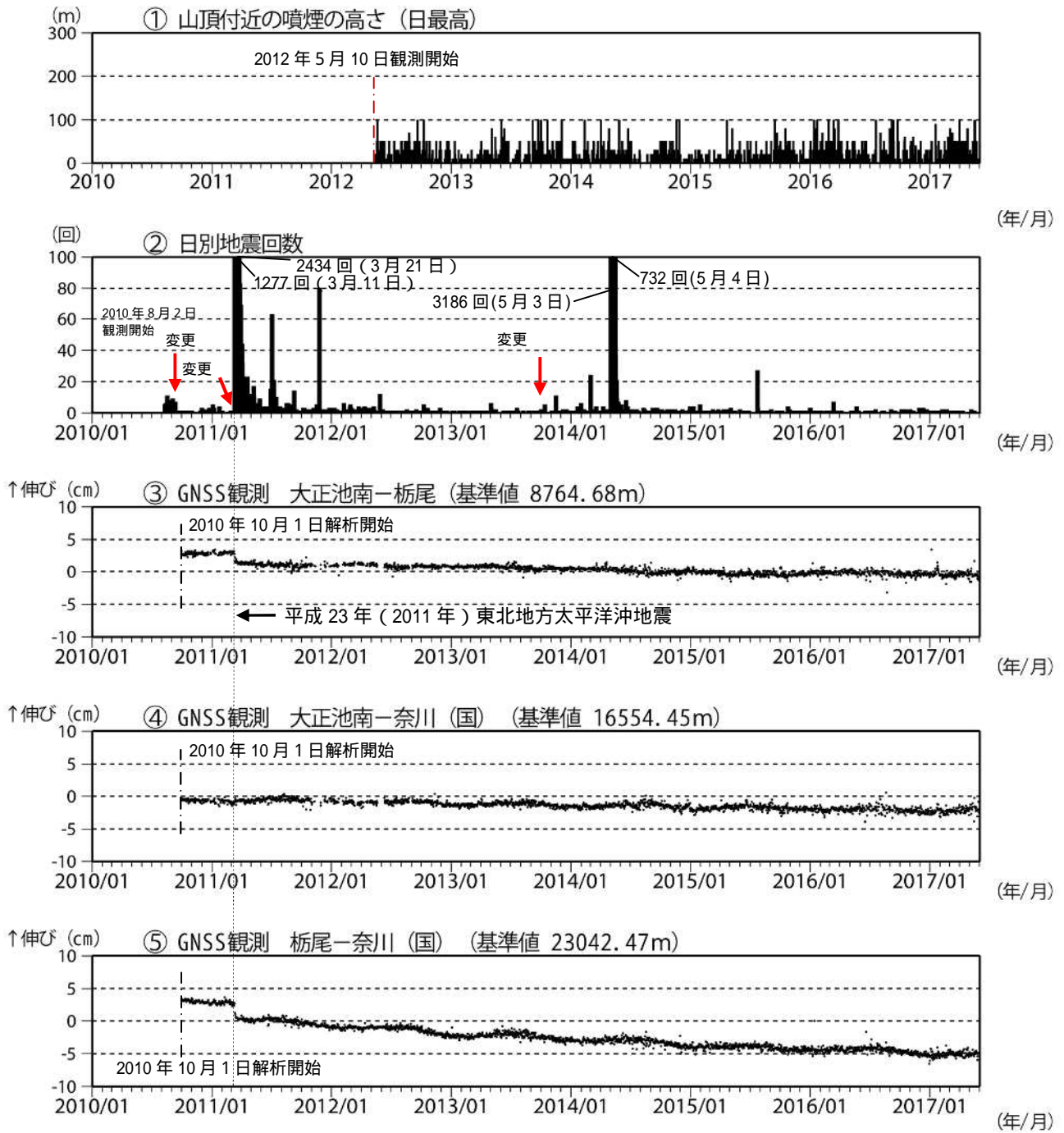


図2 焼岳 火山活動経過図（2010年8月2日～2017年5月31日）

焼岳周辺の日別地震回数

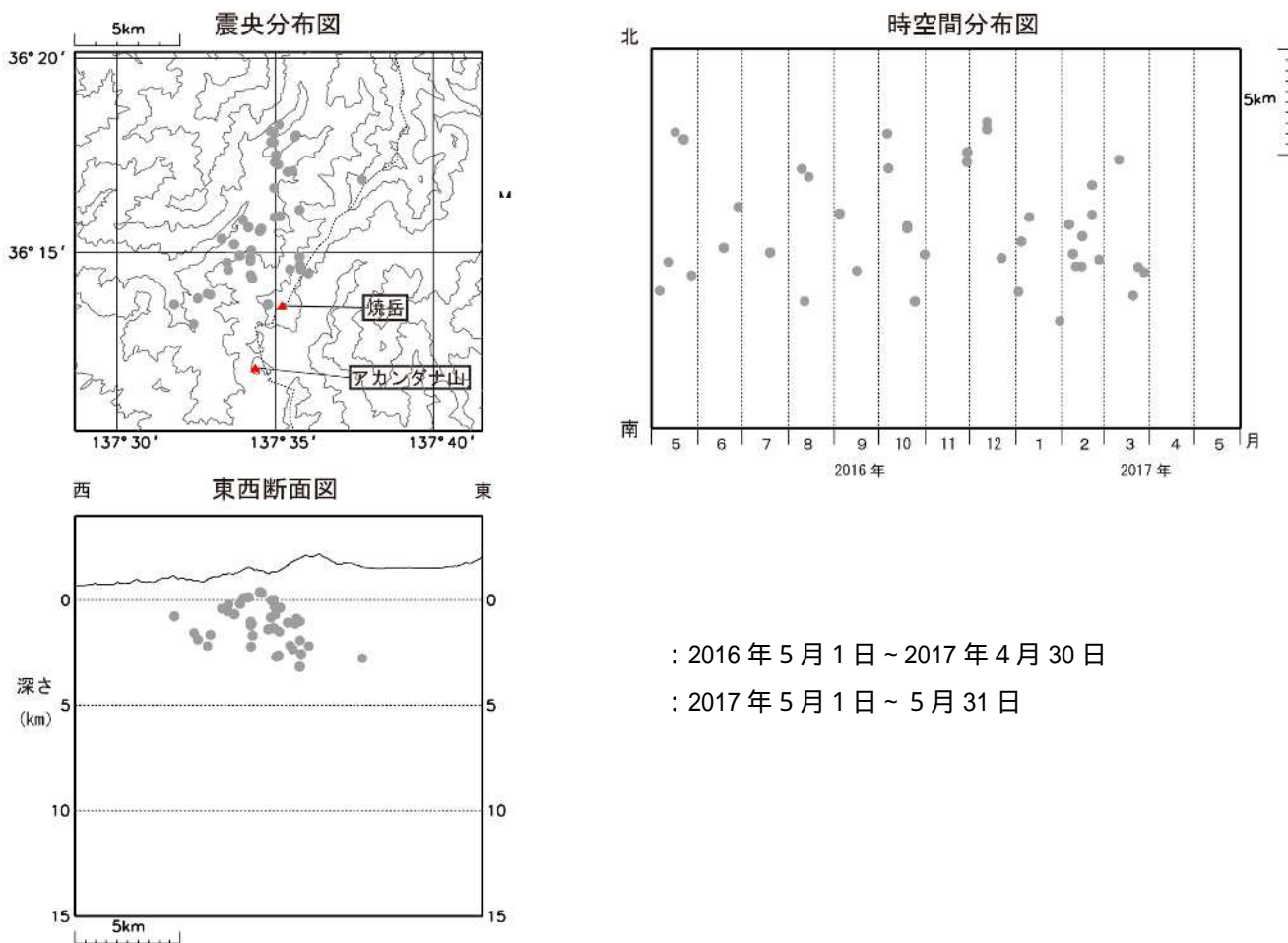
2011年3月11日に発生した「平成23年（2011年）東北地方太平洋沖地震」以降、焼岳周辺で地震活動が活発な状況となりましたが、その後、地震活動は低下しました。2014年5月3日から4日にかけてと2015年7月24日に一時的に活発化した後は低下しています。

～ GNSS連続観測による基線長変化（国）：国土地理院

2011年3月11日に発生した「平成23年（2011年）東北地方太平洋沖地震」の影響により、ステップ状の変化がみられます。

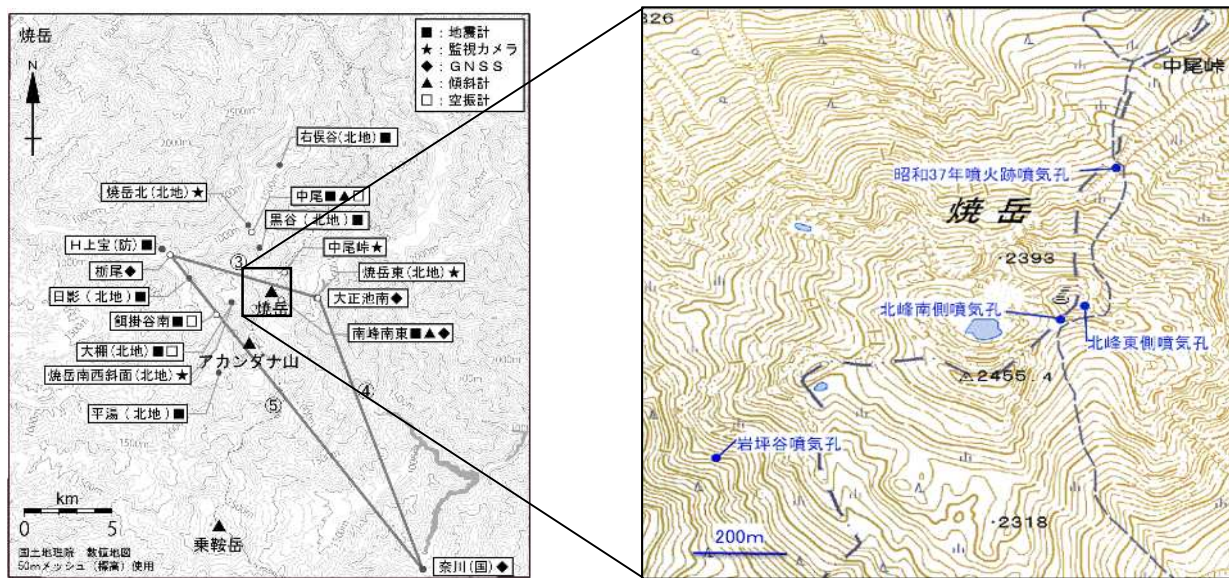
～ は図4のGNSS基線～に対応しています。グラフの空白部分は欠測を示します。

【地震の計数基準の変遷】	開始	2010年8月2日～2010年9月21日	中尾振幅0.5 μ m/s以上、S-P2秒以内
	変更	2010年9月22日～2011年3月10日	中尾振幅0.5 μ m/s以上、S-P1秒以内
	変更	2011年3月11日～2013年9月30日	中尾振幅3.0 μ m/s以上、S-P1秒以内
	変更	2013年10月1日～	中尾振幅2.0 μ m/s以上、S-P1秒以内



：2016年5月1日～2017年4月30日
 ：2017年5月1日～5月31日

図3 焼岳 震源分布図（2016年5月1日～2017年5月31日）
 ・火山性地震の発生は少なく、地震活動は低調に経過しています。
 （今期間、焼岳周辺に震源が求まった地震はありませんでした）



小さな白丸（○）は気象庁、小さな黒丸（●）は気象庁以外の機関の観測点位置を示しています。
 (国)：国土地理院、(防)：防災科学技術研究所、(北地)：北陸地方整備局

図4 焼岳 観測点配置及び噴気孔位置
 ・GNSS 基線 ~ は図2の ~ に対応しています。